

「グローバル AI ダイアログ：私たちの生活や社会に影響を及ぼす
人工知能 (AI) についての対話ワークショップ」

開催報告

開催概要

日時：2024 年 8 月 24 日 (土) 10:00-13:30

会場：東京大学本郷キャンパス国際学術総合研究棟 4 階 SMBC アカデミアホール

主催：東京大学国際高等研究所東京カレッジ

東京大学未来ビジョン研究センター

東京大学次世代知能科学研究センター

共催：ミュンヘン工科大学 (ドイツ)

協力：東京大学 B'AI Global Forum

「グローバル AI ダイアログ」について

「グローバル AI ダイアログ (Global AI Dialogues)」は、ミュンヘン工科大学の研究チームが中心となり、世界各地で市民を招いて人工知能 (AI) に関するトピックについての対話の場を設ける、ワークショップ・シリーズである¹。その一環として、日本の研究チームがミュンヘン工科大学の研究チームと協力して開催した今回の東京でのワークショップでは、約 60 名の参加者が、生成 AI、顔認証技術、児童虐待対応 AI について、それらの社会にもたらす影響などを話題に対話を行なった。東京での開催と同時期には、ドイツやナイジェリアでも同じ枠組みでのワークショップが開催されており、アウトプットは国際的な文脈で比較・分析される予定である。

当日の様子

1. 開会挨拶と趣旨説明

開会にあたり、日本の研究チームを代表して東京大学国際高等研究所東京カレッジの江間有沙准教授、主催者を代表して同じく東京カレッジの星岳雄カレッジ長、さらにミュンヘン工科大学の研究チームを代表して Chiara Ullstein 氏と Michel Hohendanner 氏が、挨拶と趣旨説明を行なった。

¹ 「グローバル AI ダイアログ」は、IEEE Computer Society から助成を受けている。



▲ 挨拶と趣旨説明を行う江間准教授（左）と星カレッジ長（右）。



◀ 同じく、Ullstein 氏（中央）と Hohendanner 氏（右）。同時期に行われたドイツやナイジェリアでのワークショップにも言及し、「対話を通じて市民の視点を世界に発信するプラットフォームを提供したいと考えている」と述べた。

2. 情報提供

つづいて、東京大学次世代知能科学研究センターの大黒達也准教授、大阪大学社会技術共創研究センター実践研究部門のカテライアメリア特任助教、筑波大学ビジネスサイエンス系の尾崎愛美准教授、株式会社 AiCAN の椎名拳太氏から、それぞれ、AI 技術一般、生成 AI、顔認証技術、児童虐待対応 AI について、基本的な情報が説明された。「グローバル AI ダイアログ」では、ワークショップ当日の話題に関わる基本的な情報を整理した資料が参加者に対して事前に提供されており、各氏はそれを踏まえて簡潔に説明を加えた。





▲ 説明を行う大黒准教授（左上）、カテライ特任助教（右上）、尾崎准教授（左下）、椎名氏（右下）。



◀ 事前に提供された資料の一部。資料は、AI 技術一般、生成 AI、顔認証技術、児童虐待対応 AI について、それぞれ数ページで説明するものとなっている。

3. グループワーク

情報提供につづき、5-6 名ずつに分かれてのグループワーク（対話）が行われた。各グループは、生成 AI、顔認証技術、児童虐待対応 AI のいずれかのテーマを割り当てられ、用意されたワークシートや付箋を用いながら、約 2 時間（休憩 1 回を含む）にわたってグループ内での対話を行なった。グループには、対話を支援するスタッフ（グループサポーター）が 1 名ずつ配置された。



◀ グループワークでは、最初に簡単なデモ体験が行われた。各グループは、割り当てられたテーマに応じて用意されたツールを用い、生成 AI では画像とテキストの生成、顔認証技術では 1:1 認証、児童虐待対応 AI ではセーフティアセスメントツールの利用をデモ体験した。写真は顔認証技術を扱うグループの様子。



◀ 「もし生成 AI/顔認証技術/児童虐待対応 AI がこの分野（例：公共サービス）で、こんなふうに使われるようになったら？」といった出発点をグループで決め、起こりうる事象についてブレインストーミングを行なった。つづくステップでは、ここで挙げた事象を、ポジティブ/ネガティブ、影響度、発生確率といった観点で評価した。



◀ 起こりうる事象についての対話を踏まえ、「話してきた分野において生成 AI/顔認証技術/児童虐待対応 AI と向き合う社会が掲げるべき目標」を決めて、ステークホルダーや、目標達成のための行動・施策などについて話し合った。最終的には、「望ましい未来はどのようにして導くことができるのか」、バックキャストイングを行なった。

4. 全体での共有

グループワークでの対話の内容については、全体に向けても各グループから簡単な共有が行われた。



▲ 全体での共有の様子。共有は、昼食とともに行われた。

5. コメントと閉会挨拶

閉会にあたっては、東京カレッジの浅間一特任教授と AI セーフティ・インスティテュートの村上明子所長がコメントを述べ、江間准教授が閉会挨拶を行なった。



▲ コメントを述べる浅間特任教授（左）と村上所長（右）。



▲ 閉会後の集合写真。

後記：日本の研究チームの学生として

まず、参加者の方々、ご協力くださったすべての方々に、研究チームの一員として感謝申し上げます。

「グローバル AI ダイアログ」を日本でのワークショップとして形にするプロセスに多くの方々とともに関わり、実際に当日のとても密度の高い対話を見て、多くの刺激を受けました。

日本の研究チームとしては、まず「グローバル AI ダイアログ」の枠組みでアウトプットの分析に取り組むこととなりますが、今回のプロセスを通して見えた多くの可能性や課題を、将来のさらなる取り組みにつなげていくこともまた、求められていると思います。私自身、このことをとても楽しみにしています。

文責：栗林諄（東京大学公共政策大学院修士課程）